

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

第1回「幼保小接続期研修会」～スタートカリキュラムの授業を通して～

4月に公開授業を行った学校では、地区として子どものどんな姿を大切にしているでしょう…

～4月20日 横浜市立本郷台小学校

入学式から2週間。学校全体で子どもの「やってみたい」を尊重することが、のびのびとした子どもの姿につながっていました。



自分の行きたいところを目指して学校探検に。図書館では司書の先生の温かい関わりで本への興味がわきます。

数に興味がある子どもたち。「ぐんぐんタイム」では、「あわせて5！」と指で数を出し合せてゲームをしたり、数のブロックを並べたりしています。



魅力的な農園。「えをかきたい」という思いを受けて、紙と色鉛筆を持って、もう一度農園にやってきました。



「いい意味で年長のころと変わらないです。それだけ安心して自分らしくいられるのだとわかり、うれしいです。」という、参観した近隣の園の先生からのコメントがありました。

幼児教育で根っこを育てる。根っこの力を育てて花を咲かせるのが小学校です。幼保小は子どもたちの思いを実現でき、手ごたえを感じられる場であることが肝要。小学校では「10の姿」が発揮できるように。そこがカリキュラム！

講師：横浜創英大学こども教育学部長
大内 美智子 氏 より

～4月25日 横浜市立鶴見小学校～

安心感を育むことが人への信頼感を育てます。校内の「ひと」とのつながりが地域へと広がっていきます。スタカリは、子どもの思いを大切にしている授業です。



学校探検で見つけた、ブロックやカプラを思い思いに並べたり積んだり。夢中になることで学びもいっぱいです。

「なかよしタイム」で一緒に過ごした先生が音楽室にいることを、学校探検で見発見。「音楽の先生ともっとなかよしくなりたい！」願いがかないました。



研究協議会には、市内外から、約140名の参加がありました。子どもの姿を中心に、見取りの仕方や架け橋期に大切にしたいことを熱く語り合いました。



「園で引っ込み思案だった子が、先頭に立って活動している姿を見て、涙が出るほどうれしかったです。」卒園児の様子を見た園の先生が嬉しそうに語っていました。

熱中させなさい。熱中した後の静寂の時間が大切。それが振り返りです。子どもの生活と学びは分けられません。関心をもって子どもを見ると、10の姿が見えてきます。多様性を大事にし、一人で取り組む子も受け止めてつなげましょう。

講師：元文部科学省初等中等教育局主任視学官
嶋野 道弘 氏 より

こども青少年局保育・教育支援課 幼保小連携担当

045-671-3731 kd-youhosyo@city.yokohama.jp